

平成 1 2 年 8 月 8 日
気 象 庁

三宅島及び新島・神津島周辺の火山活動及び地震活動について

三宅島及び新島・神津島周辺の火山活動及び地震活動に関する火山噴火予知連絡会の検討結果は次のとおりです。

1 三宅島の火山活動について

三宅島では、7月14～15日の山頂噴火以降、噴火は確認されていませんが、8月7日朝には山頂火口からの噴気現象が観測されました。

7月8日以降見られている、ゆっくりとした山下がりが続けては急速に反転する地殻変動と、その反転の数時間前から山頂部で地震が多発するという現象は、頻度はやや減少しましたが、現在でも1日に1回程度発生しています。これは、雄山火口直下で体積収縮と膨張が繰り返し発生しているものと考えられます。

地震活動は若干低下傾向ですが、引き続き収縮を示す地殻変動が続いています。

この間、雄山山頂の火口底の陥没が進んでおり、8月4～5日の観測によると、山頂火口の直径は1.3～1.4 km、深さは約450 m、容積は約3億5千万 m^3 と推定されます。陥没による火口容積の増加率は次第に鈍化しています。

以上のように、山頂直下の地震活動及び地殻変動が依然として続いていることから、今後も山頂において小規模な噴火が発生する可能性もあります。また、山頂火口の拡大が続くと考えられます。

三宅島山頂では噴火や崩落に引き続き注意が必要です。山麓での噴火の可能性はありませんが、火山灰には注意が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

2 新島・神津島周辺の地震活動について

6月下旬から、三宅島から新島・神津島付近にかけての海域で、活発な地震活動が続いています。海底地震計による観測結果から、これらの地震の震源の深さは数 km～10 kmと推定されます。8月3日の夕方頃から神津島の東方海域においてマグニチュード4～5クラスの地震が多発し、地殻変動が一時的に加速しましたが、5日以降はほぼ7月中旬の変化に戻りました。しかしながら、神津島の東方海域を中心とする地殻変動は依然継続しており、岩脈状マグマの活動は続いていると考えられます。今後とも、地震活動及び地殻変動等を注意深く監視していく必要があります。

新島・神津島周辺では、今後とも、これまでと同程度の規模の地震が発生する可能性があり、地震の発生する場所によっては強い揺れを伴うことが考えられます。また、この地域では、これまでの地震により地盤の緩みが発生していることから、規模の小さな地震や少量の雨でも土砂崩れや崖崩れの発生に注意が必要です。